

健 診 後 の 指 導

動 向

予防医学協会が実施している健康診断の受診者総数は統計表（検診・検査の種目別実施数のとおりである。近年、定期健康診断や人間ドックなどで有所見率が増加しているという報告がなされている。これらの受診者に対して当協会では事後フォローのために各種外来、保健指導、健康教育の場を提供している。

平成18年度における施設での健診後のフォロー体制は、より個人に即した対応を目指し、①精密検査の体制、②事後指導の体制、③生活習慣改善プログラム、の三つの側面から受診者を支援している。

事後指導の体制

消化器外来

消化器検診、大腸がん検診、腹部超音波検査の精密検査およびフォローアップを実施している。（胃集団検診・大腸がん検診・超音波検診参照）。

循環器外来

定期健康診断、人間ドックなどの循環器系有所見者の精密検査、フォローアップ、生活指導などを実施している。（循環器精密検診参照）。外来受診者は1,501名。

生活習慣病外来

定期健康診断、その他の生活習慣病関連項目で所見のあった受診者に対して再検査、精密検査の実施、事後指導を行っている。生活習慣改善を目的とする外来であるので、結果に応じて外来でのフォロー、他院への紹介やメタボリック（内臓脂肪）外来、生活習慣病改善プログラムへの参加を勧奨している。外来受診者は787名。

メタボリック（内臓脂肪）外来

メタボリックシンドロームの診断基準が示され、内臓脂肪型肥満に着目した保健指導の重要性が認識されつつあることをうけて、当協会では平成18年8月よりメタボリック（内臓脂肪症候群）外来を開設している。6ヶ月のコースでは、初回に腹部CTを実施、内臓脂肪面積を測定し動機づけを行う一方、期間中に歩数計、50g精密体重計、血圧計を貸し出し、自己管理を行う。管理栄養士による食事調査とあわせてほぼ月に1回医師、管理栄養士が面談し指導、評価を行う。

労災保険二次健康診断

職域における心疾患・脳血管疾患の予防、早期発見を目的として当協会では生活習慣病外来において2001年より実施している。定期健康診断でBMI、血圧、脂質、血糖の4項目全てで所見のあった受診者に対し血液検査、頸部エコー、負荷心電図（心エコー）を行い、特定保健指導を実施している。必要な場合、各専門医療機関への紹介を行っている。

腎臓病外来

昭和51年から学校検尿で管理が必要な学童に対して、月1回腎精検のための外来を設けた。その後学童の家族の相談、事業所の健診で腎疾患の疑いのある人も対象とした。外来受診者800名。保健師による指導は48名、管理栄養士による指導は25名である。

糖尿病外来

糖尿病の大多数は、生活習慣が発病に大きく関与する2型糖尿病である。健診後に所見のあった人に事後指導を行う。外来受診者95名。

保健師による指導は86名、管理栄養士による指導は34名である。

女性クリニック

更年期特有の愁訴の著しい女性に、女性クリニックを開設している。年齢階層別には50歳～55歳を中心に45歳～60歳に多く、ホルモン補充療法に対する要望も多い。

骨粗しょう症外来

骨粗しょう症予防検査で生活注意、要治療の人の事後措置を行っている。外来受診者181名。

禁煙外来

ニコチン依存症については、長年議論はありましたが現在ではニコチンには精神的依存性だけでなく肉体的依存性もある事が明らかになり「ニコチン依存管理料」が健康保険適用になりました。

当外来では『禁煙治療のための標準手順書』に従い、ニコチン依存度のスクリーニングテスト（TDS）とプリマリン指数（1日の喫煙本数×喫煙年数）によって保険適用の是非を確認し、ニコチンパッチ剤を処方します。受診者の方には3ヶ月間の間に5回ほど受診していただき呼気中の一酸化炭素濃度の測定結果をグラフなど視覚で確認しながら専任医師、専任看護師、薬剤師がチーム医療として禁煙のサポートをしており、禁煙成功者には認定証を渡しています。外来受診者136名。